

伯耆町「部活動地域移行」課題と今後の取組

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保する。
 - 生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出する。
- 令和4年12月「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」より

- ◆まずは、休日に活動している学校部活動の、地域連携・地域移行を推進する。
- ◆その際、①生徒の活動の持続性 ②教職員の働き方改革 ③地域活性化を志向する。
- ◆平日は、基本的に学校部活動を実施する。
- ◆平日及び休日の学校部活動への生徒の参加については任意とするものの、長年学校部活動が寄与してきた教育的意義をふまえ、生徒・保護者へ対し各種放課後活動への参加を推奨する。

令和6・7年度が推進期間だが

【持続可能性】※学校だけでは解決できない。

- ▲少子化による学校規模の縮小により、生徒・保護者のニーズのある学校部活動を設置することができない。
- ▲学校部活動全員参加の原則により、放課後、本当に活動したいことができにくい。
- ▲本当にやりたいことでない活動を選ばざるを得ない。

【働き方改革】※学校だけでは解決できない。

- ▲休日の部活動時間は、教職員の時間外勤務の大きな要因となっており、自己矛盾状態。
- ▲顧問経験のない部活動の業務は、教職員の本来の業務を大きく圧迫している。



学校だけでは解決できない！

課題

- 【地域移行型】
 - ▲地域移行クラブの整備（クラブ創設・中学生受け入れ）
 - ▲指導者の確保
 - ▲指導者の謝金の確保
 - ▲原則受益者負担に対する経済的支援
 - ▲保険加入等への経済的支援
 - ▲国のガイドライン遵守とその指導
- 【拠点校型】
 - ▲中学校間の連携
 - ▲学校間の生徒輸送（バス・保護者）
- 【地域連携型】
 - ▲部活動指導員の確保
- 【国・県・町との連携】
 - ▲補助金等の手続き
 - ▲事業としての定量的な評価
- 【中体連大会】
 - ▲認定審査会へ向けた整備
 - ▲旅費の扱い

地域と学校の連携・協働に向けて

今後の取組



- 【学校部活動】
 - ◎学校部活動への原則全員加入を廃止。（個人競技）
 - ◎スイミング等、従来から取り組まれていた活動を尊重する。（団体競技）
 - ◎まずは拠点校型・地域連携型を検討する。
 - ◎選手輸送の可否を検討する。
 - ◎部活動指導員を確保し、教員不在で活動する。
- 【地域移行型】
 - ◎地域移行は優先順位を決めて取り組む。
 - ◎ニーズを把握するためにWEBアンケートを実施する。生徒・保護者（小5・小6・中1・中2）
- 【国・県・町との連携】
 - ◎地域移行クラブの枠組等の制度設計を検討する。
 - ◎補助金等の手続きを検討する。
 - ◎地域移行クラブの旅費の扱いを検討する。

令和5年度	令和6年度・令和7年度（改革推進期間）	令和8年度
鳥取県部活動あり方検討会	伯耆町と学校が協働して推進	新学習指導要領を見据えた環境整備
伯耆町部活動地域移行準備会	地域移行クラブ・指導者・活動場所・活動費・保険加入等の整備	令和8年度以降の国の動向や鳥取県推進計画に基づき、伯耆町推進計画の修正
伯耆町部活動地域移行協議会立ち上げ	地域移行クラブが整ったところから段階的に、地域連携・地域移行	地域移行クラブが整ったところから段階的に、地域連携・地域移行